



「輝く人」とは、夢のため、人のため、地域のため、一つのことに打ち込んで頑張っている人。それぞれ目的は違えど、その活動は、より良いまちづくりへとつながっています。「輝く人」の輝きを多くの方に知ってもらいたい、その思いが「輝く人」シリーズの原点です。

まちを支える若い人の力で 駅伝の伝統を守り継いでほしい



大竹駅伝競走大会副委員長

清 永 恵 三 さん (南栄2) 77 歳

大竹駅伝競走大会の大会役員として昭和 31 年の第 5 回大会から裏方として出場者を支え続けている。

昭 和 31 年の大会から、役員として中継所審判、監察、決勝審判などに携わってきました。当時勤めていた職場の上司が陸上競技協会の会長で、その方に誘われたのが役員を始めたきっかけです。現在まで 30 年以上にわたり、本部記録係に携わっていますが、初めの頃は、中継所まで記録を回収しに行っていました。また、その頃はパソコンもなく手集計だったので、時間がかかり苦労した思い出があります。

現在では、参加チームが 100 チームを超え、集計もパソコンと連動で行われるようになりました。それでも特に区間賞の集計が大変で、最終の選手がゴールした後、その区間の集計を表彰式に間に合わせないといけません。毎年時間との闘いです。本部記録員のチームワークでトラブルなく大会を終えることが出来ると、ほっとします。

大竹駅伝競走大会は大竹市が誕生する前からある歴史あるイベントです。市民の皆さんにも親しまれており、楽しみにしてください。これからの大竹駅伝競走大会を守り、発展させていく後継者を育てていきたいと思っています。駅伝などの行事をはじめとして、大竹のまちを元気にしていく若い人の力に期待しています。